

今後の町づくりについて

【ご意見】

私は現在、千曲市に住む高校三年生です。

多文化共生の町づくりを推進する課を作って欲しいです。

なぜなら、現在、千曲市には人口の約1.4%の外国の方がいますが、これから日本の人口が減少していく中で、外国の方の力が必要になり、共に暮らすようになっていくからです。

実際に、私が小中学生の頃、学校に外国から来た子どもがいました。その家庭は日本に来たばかりの頃、日本語を理解することができなく、生活に困っていました。

例えば、学校からのお便りの内容がわからなかったり、学校関係の書類を書く時や授業についていくのが困難な状況でした。

また、私の妹はフィリピンから来た友人がいます。日本に来た当初、その子の親は生活する上での困り事をどこに相談したらいいのかわからず困ったということを知ったことがあります。

将来を見据えて、全ての千曲市民が支え合って暮らしていけるような町づくりをして欲しいです。

以上、よろしくをお願いします。

このたびは貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございます。お寄せいただきました内容につきまして、下記のとおりご回答申し上げます。

【回答：生涯学習課】

現在、多文化共生については、教育委員会生涯学習課生涯学習係が担当しています。

外国籍市民の人口は増加傾向にあり、市としても外国籍市民を対象とした行政サービスの充実の必要性を感じております。

市では、市の最上位計画となる「第三次千曲市総合計画」の目標の一つとして【多文化共生】「個性や互いの文化を理解し、共に生きるまちをつくる」と定め、事業に取り組んでおります。

具体的に生涯学習課では、令和3年度より3年間の期間でNPO法人千曲国際交流協会との協働事業により、多文化共生のための「人づくりネットワークづくり」事業を行っております。この事業は、国際理解を進める多文化共生「千曲万博」の開催、外国籍市民支援事業の「日本語教室支援」と「生活相談」業務の3つを行っております。千曲国際交流協会にこれらの業務を担当してもらうことにより、これまで行政が対応しきれなかった部分のサービスをきめ細かく充実していきたいと考えております。

また、教育総務課では、日本語が話せない児童・生徒への対応となる日本語指導の仕事、生涯学習課では通訳・翻訳の仕事を担当しており、必要に応じ外国籍児童・生徒への支援、外国籍市民の困りごとへの対応を行っております。

併せて、令和3年10月10日には、市長と語ろう「お出かけシェアトーク」で市内に住む外国籍住民との意見交換会を行い、外国籍市民の方の意見や要望を直接お聞きし、今後の業務の参考にさせていただいたところです。

当面の間は生涯学習課を中心に様々な行政サービスを充実させ多文化共生事業の充実を図ってまいりたいと考えております。